

新潟大 佐藤 百世

1. 一般に「しな」は過去の衣服材料と思われ、ほろびてしまったものとされているようである。しかし新潟県には現在でも「しな」の繊維をつくり、織っている部落がある。この「しな」も他の県におけると同様過去のものとなりかねない現状である。よって今回「しな」について詳しく調査し、その歴史、製法等をまとめ記録に残したいと思った。

2. 昭和37年から39年にかけて数回調査を行なった。

3. この仕事に従事している人達が概して高齢であること、あまりにも生産者価格が安いこと、用途が次第に少なくなっていること等により、また現在行なわれている県道工事が完成しバスがかよいもっと有利な副業に従事できるようになった場合果たしてこの「しなばた」がつづいてゆくであろうかとあやぶまれる。文化財に指定するなど何か存続できる方法を考えるべきものと思われる。